

平成22年度事業評価シート(ハード事業)

NO. 52

評価2 ハード

1 事業名等(Plan 1)

事業名	普通河川整備事業											
所属名	基盤整備部		維持課		維持グループ							
第七次総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	分野	8	防災	基本 施策	1	災害に強いまちをつくる	施策	3	豪雨災害の防止
予算科目	7	3	1	河川維持	費	73115	普通河川整備					事業
					費							事業
					費							事業
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等												
事業の実施主体												
事業の実施方法												

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	普通河川の受益を受けている全ての市民	受益者数	人
目的	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	普通河川の機能を十分に発揮できるよう整備を行う。		
概要	事業の実施手法、手順	安定した流水を確保することで良質な環境を確保し、雨水排水を確実に流すことで市民の安全と財産を守るという目的に沿った方法で護岸・河床整備を行う。		
概要	事業始期・終期	始期： 年度から 終期： 年度まで 設定なし ○		
今年度の改善・改革ポイント				
前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入				
普通河川において緊急性や整備効果の高い箇所より整備を行う。				

3 事業費の推移・結果(Do)

【コスト面】

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
総合計画計画額(当初)	80,000	80,000	80,000	70,000	70,000	
総合計画計画額(計画額)	80,000	80,000	80,000	70,000	70,000	
事業費(計画・予算・見込・決算額)	150,000	108,000	80,000			
財源	国庫支出金	0	0	0		
	県支出金	0	0			
	地方債					
	受益者負担					
	繰入					
	()					
	一般財源	150,000	108,000	80,000		
		136,961	100,457			
	H17国勢調査	96,231人	32,174世帯	※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価		
	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位 %				
市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位 円/人	1,423	1,044			
1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位 円/世帯	4,257	3,122			
受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位 円/人					
↓ その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)	単位 円/人					

【成果面】

活動・成果指標	指標名	整備箇所数	資料・出展算出式							単位	箇所
			平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度		
活動指標	目標値	—	—	55	50	50	50	50		→	
	実績値	91	85								
	達成率	—	—								
成果指標	目標値	—	—	55	105	155	205	255		→	
	実績値	91	85								
	達成率	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

3 事業費の推移・結果(Do)

前年度までの実績(累計)	排水路工整備、護岸整備	H21年度100,457千円 (内容) 河川整備工事 工事費 100,457千円 その他 千円	0千円 (内容)
本年度	普通河川の整備工事	110,000千円 (内容) 河川整備工事 110,000千円 その他 千円	千円 (内容)

【成果面】

項目	評価内容(算定式)			進捗率	
	整備状況	整備見込	整備目標		
進捗	本年度	整備見込	／ 整備目標	単位	—
	本年度	決算見込	／ 予算額	110,000 千円	—
進捗	本年度	整備見込	／ 全体計画	単位	—
	本年度	決算見込	／ 全体計画	360,000 千円	30.6
事業の進捗率の考え方					
進捗結果・理由					
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 未達成 該当項目に「○」表示					

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)	判定	目的評価
(現状及び判定理由)	A:非常に高い B:高い C:低い D:非常に低い	A
河川整備は増水時の溢水対策として重要なものであり、緊急性や整備効果の高いものより整備を行っている。		
②コスト面評価(事業の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)	判定	③成果面
(判定理由)	増加 維持 減少	拡大 維持 減少
水路機能の維持に関する地元からの整備要望は年々増加している。	1	○
③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)	判定	コスト・成果ポジション
(判定理由)	拡大 維持 減少	F
整備により河川の機能や安全性が確保された。	1	第4水準

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→ I 「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→ II 「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→ III 「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→ IV 「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→ V 「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案(下記チェック)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり実施 <input type="checkbox"/> 改善・継続 <input type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 完了
不良箇所・改善箇所の情報収集と計画的な事業執行を図る。
次年度実施方針
同上

総合評価		
コスト	成果	評価区分
中	中	III
「II」以上の水準に向けた改善が必要		
水害による被害を抑えるためにも本事業は重要なものであるが、限られた予算の中で効果を上げるには対象箇所の優先度を決め、それに基づき整備を行う必要がある。		